

辻 正次

兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 教授

## 途上国との効果的な国際遠隔講義の実施方法

本調査研究の目的は、遠隔教育を通じて各種試行実験を行い、コスト・パフォーマンスの良好な遠隔講義システムを調査・研究をすることにある。特に、(ア)これまでに把握されている ISDN やインターネットを用いた国際遠隔講義での映像や音質の一定品質や安定性の確保、Polycom と Tandberg といった市販されている異種機種間で相互接続の可能性、安定的な国際通信回線の確保といった技術面での研究、(イ)効果的な教育方法やコンテンツの作成方法、これ当初の調査研究の目的として、15回の講義配信を行った。今回は(ア)については、NTT コミュニケーションが開発した Cyber Conference System (以下、CCS) 用いた。従って、本研究で技術に関して行ったことは、CCS システムの評価実験であった。今回は、ブロードバンドの国際学術回線を用い、映像・音声など遠隔講義の質の向上に大きく貢献できるはずであった。しかし、SIIT の受講生による評価では、これまで3カ年の HIT プロジェクトとそう大差ない結果に終わった。この理由としては、タイ国内での回線の容量が小さくブロードバンドの特質が生かせなかったこと、CCS については初期のバグが発生したこと、講義時でのカメラ、マイク等の配置など、新しいシステムと連動しその効果を引き出す方法が確立できなかったこと、これらが原因と推察される。(イ)については、従来 HIT プロジェクトで行ったライブで講義送信に加えて、オンデマンド型の講義も「学習支援システムを利用した演習」として実験した。後者では、二つの講義をサーバーに蓄積し、受講生が随時そのサーバーにアクセスし講義を受講するものである。二つの講義では、PC の画面を通して受講するものであるから、画面が小さく受講しづらく、対面講義のように緊張が持続しない。従って、講義コンテンツの作成では、一つの講義では、1トピックスを15分程度に限定し、6つ程度のトピックスが中心にして、簡潔にわかりやすく解説する方法をとった。

## 研究成果の発表

“A Comparative Analysis of International Distance Learning Methods: Lesson Learned from the Experiences between Japan and Thailand”

Proceedings of 20th Association of Asian Open University(AAOU)  
Annual Meeting, 2006